

| | | | |
|---|--------------------------|------------------------------|------------------|
|  | 進取の気概 (校長室だより) | 有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健 | R4・5・13 No. 8 |
| | | | |

季節それぞれの風景や色、香りなどを意識して感じ、楽しむことができると心や生活がより豊かで潤いのあるものになります。みなさんにはそんな感性豊かな人になってほしいと願っています。そこで、今の季節の話を紹介します。

今年の立夏は5月5日でした。暦の上では夏となります。と言っても、本格的な夏はまだまだ先、今がちょうど爽やかで一番気持ちの良い初夏という季節です。あいにく最近雨の日が多くで残念ですが・・・

この季節、そよぐ風に若々しい新緑の香がします。若葉の間を吹き抜け、新緑の香りを運んできてくれる南風を「薫風」といいます。この言葉を言い換えた「風薫る」は手紙の書き出しに使う時候の挨拶でもおなじみです。「風薫るすがすがしい季節となりましたが、みなさまにはお元気でご活躍のこととお喜び申し上げます。」というような感じです。



〈目には青葉 山時鳥 初鯉〉

「目にはまぶしく輝く木々の新緑が映り、耳には山にいるホトトギスの鳴き声が聞こえて、口では新鮮な初鯉を味わうことができる。」初夏の風物を視覚・聴覚・味覚でとらえた江戸時代の俳人、山口素堂の俳句です。ホトトギスは夏とともに東南アジアからやってくる渡り鳥、5月頃に日本へやってきて、秋には去っていきます。よく響く声で「キョキョキョキョキョ」と鳴きます。日本には昔から鳥の鳴き声を人の言葉に置き換える「聞きなし」という遊びがあります。ウグイスの鳴き声の「法法華経」は有名です。ホトトギスは「特許許可局」だそうです。初鯉は初夏に黒潮に乗って北上するカツオのこと、江戸時代には「初物を食べると75日長生きできる」という言い伝えがありました。初物とはその年初めて収穫されたものです。江戸の人々は初鯉には生命力が溢れていると信じ、我先にと食べたそうです。さっぱりとした味わいの初鯉は表面を炙った「たたき」が定番です。



今は保存技術やハウス栽培、養殖などが普及し、食べ物の旬が以前よりはっきりしなくなっていますが、旬のものを季節を感じながらいただくことを大切にしたいものです。